

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑫【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして実感する。	総合的な学習の時間

【題材】

「心を伝えるプロジェクト」

【対象】

江刈中学校 全校生徒（1年生10名、2年生13名、3年生15名 計38名）

【実践の概要・詳細】

1 プロジェクト立ち上げの経緯

平成23年3月11日、未曾有の大震災津波に襲われた岩手の現状は、壊滅的で目を覆うばかりであった。

そのような中で本校の生徒たちは、「自分たちにできることは何だろう」との問いかけから、地域や保護者の力を借りて「復興農園」の取組を始めた。内陸部に位置する学校として、人や地域に関わることを大切に

「心の復興」を目ざす取組ができることに気付いたのだ。取組は「部活動交流」「被災地訪問」「合唱交流」等と一気に広がりを見せた。

時間の経過とともに変化する被災地の状況に応じて取組内容を検討しながら、今年度も「心を伝えるプロジェクト」を継続してきた。

2 今年度の主な取組

(1) 江中農園（復興農園）

震災直後の平成23年5月に始めた取組である。心を込め、手間暇をかけて野菜を育て、これらを届け、被災地と「関わることで心を伝える」ことをねらいとしている。

700m²ある江中農園は学校近くに居住する自治会長からお借りした。肥料は保護者より提供していただき、畑の耕しは前PTA会長に協力いただいている。

今年度も、技術の時間や総合的な学習の時間、昼休み時間を活用して、苗植え、草取り、水やり、収穫まで全校生徒が協力して取組んだ。

収穫した野菜は、被災地訪問や4校交流の際に、励ましの言葉を添えて手渡している。

(2) 被災地訪問

① ねらい

被災地の今を知り、肌で感じることで、思いやり（共に生きる）の気持ちを育て、地域への貢献、生き方を考える機会とする。

- ・復興現状を実際に見聞きして感じさせ、考える機会とする。
- ・被災地の様子や被災地の中高生の活動を知ること、地域のために自分ができることを考える機会とする。



江中農園：苗の植え付け作業



被災地訪問（野田村）

- ② 実施日 平成 26 年 9 月 10 日（水）
- ③ 訪問先 【野田村】野田村役場（概要説明）、仮設住宅城内地区高台（移転地造成工事）、区画整理（復興街路工事）、十府ヶ浦海岸（被災防波堤）、野田塩工房（製塩工房見学）、仮設店舗（昼食等）
- ④ その他 9 月 3 日（水）野田村からいただいた資料等を使っての事前学習会を実施
- ⑤ 生徒の感想



9 月 10 日、僕達 2・3 年生は被災地である野田村を訪問しました。僕は野田村に行くのは初めてではありません。小学校 6 年生の時にそばを作ってそれを食べてもらおうと 6 年生のみんなで行きました。その時は大震災から 1 年も経っていない時だったので、何もありませんでした。一番心に残ったのががれきの量でした。僕はその量を見て言葉も出ませんでした。津波はどれだけの大切なものを奪ったんだろうとその時改めて実感しました。

あれから約 3 年。中学 3 年になった僕は「今、野田村はどうなっているんだろう」と思いながら野田村に向かいました。着いてみると家など団地が 3 年前より多く建っていました。仮設住宅を訪ねてみると家族やお年寄りの方達が住んでいました。あいさつをすると笑顔で返事をしてくれました。僕は嬉しかったです。この人達は津波で大切なものを奪われ悲しかったはずなのに、何も知らない僕達にあいさつしてくれたからです。そして海も見ました。とてもきれいでした。こんなきれいな海が全てを奪っていくなんて当時は誰も想像できなかったと思います。

僕は今、本当に幸せなんだと思いました。被災地の人は当たり前のことができない人もいます。それを助けようと日本中の人々が協力しています。僕も大人になったら人を助ける仕事

（3）4 校交流会

① ねらい

復興教育では、実践的取組を通して「生きる」「かかわる」「そなえる」の 3 つの教育的価値を育むこととなるが、被害の少なかった葛巻町として、「かかわる」ことを大切にしたい取組とする。具体的には、多大な被害を受けた地域の中学生と互いに顔を合わせ、復興を担う世代として、共に元気になりたい、共に未来を拓きたいという思いを伝えることで「故郷を思う心」「他人を思いやる心」「自主的・自立的な心」を養う。

- ② 交流校 田野畑村立田野畑中学校
葛巻町立小屋瀬中学校、葛巻中学校、江刈中学校の 4 校
- ③ 内容 各校の発表、ウルトラクイズ、全体合唱「イーハトーブの風」



4 校交流会

【成果と課題】

- 震災直後から取組み始めた「心を伝えるプロジェクト」は、は、確実に生徒の心に「生活や地域の中で自分の役割を意識し、何ができるかを考え、積極的に関わる」という意識を高める活動となっている。
- 同じ活動を続けていくことで、形だけが残り、本来のねらいや目的が薄れてくる。常にねらいや目的を意識し、効果的な活動になるよう内容を検討しながら取組を継続したい。